

茨城農業を応援する

農業いばらき

1
第60巻
2008

<http://nouiba.jp>

60周年記念号

特集

担い手の育成確保 茨城農業改革推進大会



UFOクラブのみなさん（牛久市）



龍ヶ崎市／竹下さんご夫婦 P92

技術と経営

- 農作業の安全対策
- 物日に向けた直売所向けの切り花栽培
- 青色申告制度と会計

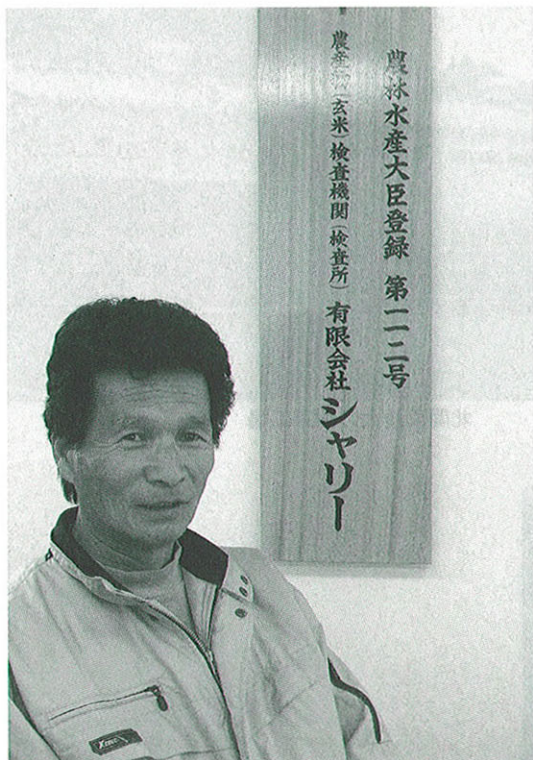
みんなで進めよう
茨城農業改革

米の生産から販売へ

イチゴや野菜を組み合わせた
経営の展開

(有) シャリー

代表取締役 鈴木 一男



鈴木代表

五霞町は、関東平野のほぼ中央に位置しています。利根川、江戸川などの大河川に四方を囲まれ、肥沃な土壌で生産されるお米は美味しいと評判の地域です。

そこに、お米の生産から販売を手がける有限会社シャリー(代表取締役 鈴木一男さん)があります。

養鶏業から 作業受託経営へ

鈴木さんは、高校卒業と同時に養鶏業を開始。父親が、稲作経営を行っていたことから、四年で養鶏をやめ、昭和四四年に、作業受託を中心とした経営に転換しました。

「この時期は、基盤整備が進み、作業の一部を委託する農家が増えたことから、いち早くトラクターを導入して、

作業受託への経営を転換した」と話します。

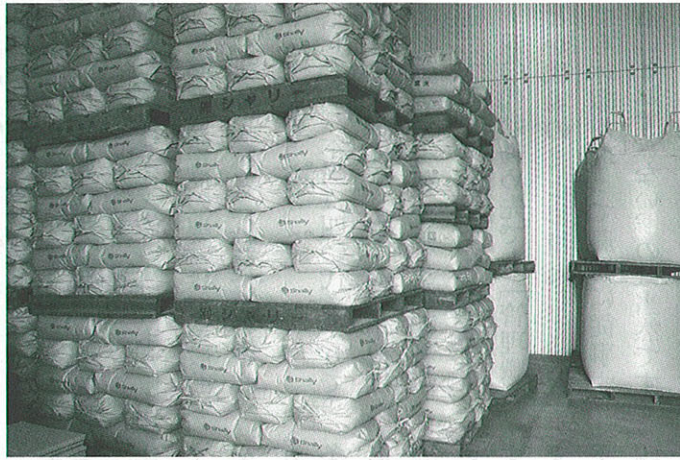
「当時は、かなりの面積を請け負い、作業をこなした」と当時を振り返ります。

作業受託を中心に経営を展開してきた鈴木さん。経営の安定を図るため、徐々に借地による規模拡大を進めてきました。

平成元年には、経営規模も二〇haまでに拡大。その間に米の小売業許可を取得し、本格的に米の生産から、販売へと経営を転換してきました。

年間一万二〇〇俵を販売

経営も順調に伸びてきたことから、平成五年六月に、有限会社シャリーを設立。米の自社生産から作業受託、精米して販売するなど、本格的に生産と販売を開始しました。



低温倉庫に積まれたお米



色彩選別機



精米機

現在、経営面積は、水稲で自作地と作業受託を合わせて六三haを作付けしています。シャリーは、平成一八年六月に低温倉庫、ライスセンター、精米工場を建設しました。この施設の完成により米

の加工処理量は増加しました。現在、販売しているお米は、自社農場で生産される米の他、東北の主要銘柄米の仕入販売。シャリーで販売される米の量は年間一万二〇〇〇

俵になります。

「将来は、販売量のほとんどを自社農場でまかなうため、さらに規模拡大を進めていきたい」と話します。

異物を取り除く

色彩選別機を導入

鈴木さんは、消費者へ安心して食べてもらえるお米の提供にこだわってきました。

「安心して食べてもらうために衛生面に気を配った米の販売が重要」として、いち早く色彩選別機を導入しました。

「導入当時、小規模の精米設備で色彩選別機を導入しているところは少なかった」といいます。「お米の安全性を考えると必要なこと」と話す鈴木さん。

現在は、二台の色彩選別機を駆使して、確実に異物を取り除いています。

お米の販売先は、給食セン

ター、病院、社員食堂、高等学校、大学校、レストラン、弁当店など。販売先では、「炊き上がったご飯がツヤツヤしていて味もいい」と評判。次々に販路は拡大していったといえます。

新たな経営の展開

これまでに、イチゴや露地野菜の導入、新四号国道沿いにある道の駅での直売にも力を入れるなど、常に新しい分野を開拓してきました。

鈴木さんは、「メリットのないものは早い段階で見切りをつけ、常に新たな経営を展開して行くことが重要だ」といいます。

周年を通して、雇用労働力の確保を図るために導入したイチゴ経営。今後は、イチゴを主体とした観光農園を展開したいと夢は膨らみます。